



第5回定例会、議員賛否 P2

一般会計補正予算 P3

令和5年度歳入歳出決算 P4

一般質問 P5～12

総務文教常任委員会 P13

市民福祉常任委員会 P14

産業建設常任委員会 P15

活動紹介・人事案件・
編集後記 P16

— 第5回 (9月) 定例会 —

健康保険証 令和6年12月2日以降 新規発行が終了!!

令和6年 第5回定例会が9月3日から9月27日まで25日間の会期で開催され、令和6年度一般会計補正予算などの予算関係6件、令和5年度決算認定関係12件、報告関係5件、条例関係1件、その他6件、人事関係2件の計32件が審議され、すべての議案が可決・認定・同意されました。また、最終日に議員提出議案の「地方財政の充実・強化を求める意見書」について、もっと仙北市議会全体での議論が必要との反対意見が多数で否決となりました。

■第5回 定例会で可決された主な議案

議案第78号及び議案第79号 財産の取得について【全会一致で可決】

【議案第78号】除雪ドーザ14t級(2台)の取得	
車輛概要	アングリングブラウ(ピン式)2人乗り
購入台数	2台
購入価格	46,178,000円(1台23,089,000円)
購入業者	(株)大曲産業機械 角館支店
納入期限	令和6年10月31日
契約方法	指名競争入札
※除雪ドーザの老朽化による取替え	

【議案第79号】除雪ドーザ14t級(1台)の取得	
車輛概要	サイドスライドアングリングブラウ(カプラ式)2人乗り、ロータリー除雪装置付き
購入台数	1台
購入価格	41,250,000円
購入業者	(株)大曲産業機械 角館支店
納入期限	令和7年7月31日
契約方法	随意契約

議員提出議案第5号「意見書」が否決される

最終日に総務文教常任委員会から提出された議員提出議案第5号「地方財政の充実・強化を求める意見書」に対して、2名の議員による反対討論があり、採決の結果反対多数で否決となりました。

反対討論① 総務文教常任委員5名中3名の賛成者での意見書提出であり、もう一度常任委員会での議論が必要ではないか。

反対討論② 常任委員会で十分な議論をした実感がない。要望内容に拡大解釈が過ぎる部分がある。仙北市の国への要望書を確認したうえで再度この要望書を検討するべき。

9月12日～ふるさと納税・コメを返礼品とする寄付を停止!!

ふるさと納税の返礼品の80%を占める秋田県産米の価格高騰により、あきたこまちの買い付けが難しくなり、コメの返礼品を取り扱う事業者が必量を確保するのが困難な状況にあります。

◆昨年度寄付額 25億8千万円(過去最高)
 ◆昨年度経費 14億8千万円
 ◆実質的な収入 約11億円
(今年度予算に10億円充当)

議決結果/議員賛否

令和6年 第5回 仙北市議会定例会(招集日:令和6年9月3日 最終日:9月27日)

凡例: 賛→賛成 反→反対 退→退席 欠→欠席 (議長は法律に定める特定のケース以外では表決をしないことになっています)

議案番号	会派及び氏名	議決月日	議決結果	蒼生会					公明党	共産党	無党派						
				小林幸悦	真崎寿浩	高橋輝彦	武藤義彦	青柳宗五郎	門脇晃幸	熊合一夫	平岡裕子	高久昭二	荒木田俊一	田口寿宜	澤田雅亮	中村和彦	小田島広仁
議案第79号	財産の取得について(除雪機械2)	9/3	可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	賛	賛	賛	賛	賛	賛
議案番号	会派及び氏名	議決月日	議決結果	蒼生会					せん新成く		公明党	共産党	無党派				
				小林幸悦	真崎寿浩	高橋輝彦	武藤義彦	門脇晃幸	青柳宗五郎	小田島広仁	中村和彦	西宮三春	熊合一夫	平岡裕子	高久昭二	荒木田俊一	田口寿宜
議案第80号	仙北市国民健康保険条例の一部を改正する条例制定について	9/27	可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	反	賛	賛	賛	
議案第82号	令和6年度仙北市国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	9/27	可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	賛	賛	賛	
議案第86号	令和5年度仙北市一般会計歳入歳出決算認定について	9/27	認定	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	反	賛	賛	賛	
議案第88号	令和5年度仙北市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	9/27	認定	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	賛	賛	賛	
議案第94号	令和5年度仙北市病院事業会計決算認定について	9/27	認定	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	反	
議員提出議案第5号	意見書の提出について(地方財政の充実・強化を求める意見書)	9/27	否決	反	賛	反	反	反	反	反	反	反	賛	賛	賛	賛	

※全会一致で可決された議案については議員賛否を掲載しておりません。

一般会計補正額5億2,964万9千円を可決

累計216億3,164万6千円に

クマ・イノシシの被害防止用の電気柵購入費補助金などが可決

令和6年度一般会計補正予算(第4号・第5号)の主な事業

定額減税補足給付金事業費	5,849万円	定額減税の所得税補足給付対象者の確定による給付金の不足分
高齢難聴者補聴器購入費助成事業費	30万円	65歳以上の中度難聴者の補聴器購入費の助成金の増額
医療 MaaS 管理運営事業費	13万円	医療機関への受診が困難な市民を遠隔診療するための移動診療車整備事業費の増額
有害鳥獣駆除事業費	397万円	農産物等の被害防止用の電気柵購入費補助金やくくり罠購入費等
校務支援システム運用事業費	323万円	秋田県が主導する校務支援システムに係る費用
農業用施設災害復旧事業費	587万円	今年6月30日以降の大雨被害を受けた農地、農業用施設復旧経費
公共土木施設災害復旧事業費補助金	3,082万円	昨年8月以降大雨被害を受けた河川の災害復旧経費
観光アクセス推進事業費	130万円	角館駅と紅葉の抱返り溪谷のシャトルバス運行経費の補助金
ふるさと仙北応援基金積立金	3億円	ふるさと納税寄付金の増額見込みによる基金積立金増額(計18億円)
ふるさと納税ふるさと便事業費	1億5,165万円	ふるさと納税寄付金の3億円増額分の返礼品などの経費

補正予算関連の一般質問・予算常任委員会での主な質疑

◆クマ・イノシシの被害防止対策について

質問 有害鳥獣駆除事業費の内容について伺う。

答弁 鳥獣被害対策実施隊員(猟友会)の報酬増額に249万9千円、新規狩猟者登録補助金5万6千円、くくり罠購入費41万8千円、電気柵購入費の補助金100万円である。

質問 電気柵購入費補助金の対象者と補助額を伺う。また、果樹木の伐採に係る補助はないのか。

答弁 出荷用の作物(水稲も含む)の被害防止のための電気柵購入費の1/3(上限が10万円)を補助する。また、果樹木伐採の補助金は、他市町村での成果を見て判断したい。

◆高齢難聴者補聴器購入費助成事業について

質問 今年度のこれまでの助成状況と今回の増額補正の内容について伺う。

答弁 当初予算として、上限3万円の助成金を20人分見込んで60万円計上していたが、8月で予算に達したため、今後の申請件数を鑑み、10人分の30万円を増額補正した。

補足 国保市民課窓口に「軟骨伝導イヤホン」を導入した。まだ利用はないが、かなりクリアに聞き取れる。今後の利用を呼びかけていく。

◆医療 MaaS 管理運営事業費の増額について

質問 医療 MaaS 管理運営事業費を13万円増額する内容と今後の事業展開について伺う。

答弁 医療 MaaS 車両「せんぼく医信電診丸」(移動診療車)の乗り降りの際のスライド式ステップまでの歩行が困難な方のために、車いす用のスロープを購入する費用である。

今後も利用者の要望等に応じて改善していきたい。また、看護師が同乗しており、遠隔診療だけではなく、直接患者の異常を感じたり、患者との会話による対応も重視していきたい。

令和5年度 歳入歳出決算認定なる!

9月定例会では令和5年度の決算についても審査されました。一般会計の決算額は歳入総額240億6,069万4千円、歳出総額235億7,914万5千円で、翌年度に繰り越すべき財源の7,993万2千円を差し引くと、実質収支額が4億161万7千円の黒字になっています。

令和5年度一般会計・特別会計決算収支状況

(単位：円)

区分	歳入①	歳出②	形式収支③ (①－②)	翌年度に繰り越すべき財源④	実質収支⑤ (③－④) 下段前年度	単年度収支	
一般会計	24,060,694,351	23,579,145,404	481,548,947	79,932,000	401,616,947 531,993,985	△130,377,038	
特別会計	7,846,670,732	7,706,815,697	139,855,035	0	139,855,035 214,494,504	△74,639,469	
特別会計の内訳	集中管理	3,944,143,023	3,944,143,023	0	0	0 0	0
	国民健康保険事業勘定	2,692,038,975	2,586,637,981	105,400,994	0	105,400,994 159,104,936	△53,703,942
	国民健康保険神代診療施設	87,468,793	87,430,306	38,487	0	38,487 92,627	△54,140
	後期高齢者医療	360,442,464	360,415,364	27,100	0	27,100 800	26,300
	介護保険	583,432,334	583,353,140	79,194	0	79,194 195,093	△115,899
	生保内財産区	123,327,590	97,881,194	25,446,396	0	25,446,396 35,721,126	△10,274,730
	田沢財産区	50,793,703	42,540,567	8,253,136	0	8,253,136 18,347,468	△10,094,332
	雲沢財産区	5,023,850	4,414,122	609,728	0	609,728 1,032,454	△422,726
総計	31,907,365,083	31,285,961,101	621,403,982	79,932,000	541,471,982 746,488,489	△205,016,507	

注：単年度収支＝当年度の実質収支－前年度の実質収支

解説

自治体における黒字決算について（一般質問に対する田口市長の答弁から）

- ◆自治体の黒字は、民間企業の黒字とは全く違う意味合いであることを知っていただきたい。
- ・自治体の会計は、借金であろうが基金を取り崩そうが収入として扱うことができる。
- ・黒字であっても、借金が増えたり、基金が減っていくという現象もあり得ることである。
- ・予定した事業ができなかったり、補助金より少ない金額で事業が完了すると差引プラスで黒字と表現される。
- ・黒字分は基金に戻したり、補助金を返納したりして、自由には使えない黒字である。
- ・民間企業の黒字は利益であるが、自治体の黒字は利益ではない。

令和5年度のふるさと納税に係る経費は基準以下に納まっているか
質問 ふるさと納税の経費を令和5年10月から50%以下にするよう通達されたが、令和5年度決算を見ると、ふるさと納税に係る経費が56%となっているが大丈夫か。
答弁 令和5年度決算書の経費には、ふるさと納税の経費ではない仙北市の魅力発信する経費が入っており、それらを除外すると経費は49.4%に納まっている。

経常収支比率が100%を超えたことについて
質問 財政構造の弾力性を示す指標とされる「経常収支比率」が101.8%になっている。これまでに業務の効率化や時間外勤務の圧縮などに取り組んできた成果が見えないことの説明を聞きたい。
答弁 人件費は昨年度に比べて4,114万円減少しており、取り組みの成果は表れている。令和5年度は、病院事業の収入減による補助金の2億円増額や、はなさき仙北への補助金の1億円増額があり、経常収支比率の悪化に大きく影響した。

令和5年度 一般会計決算
 本会議及び予算常任委員会
 の質疑から



蒼生会 高橋輝彦 議員

以前導入としたバス等での
移動式期日前投票所の実現を

市長 実情に合った形での導入について再度検討したい

仙北市の令和5年度決算について

質問 令和5年度の一般会計の実質収支額が4億161万7千円の黒字決算とのことだが、自治体の会計は、民間企業での黒字とは違うものであることを市民に分り易く伝えるべきではないか。

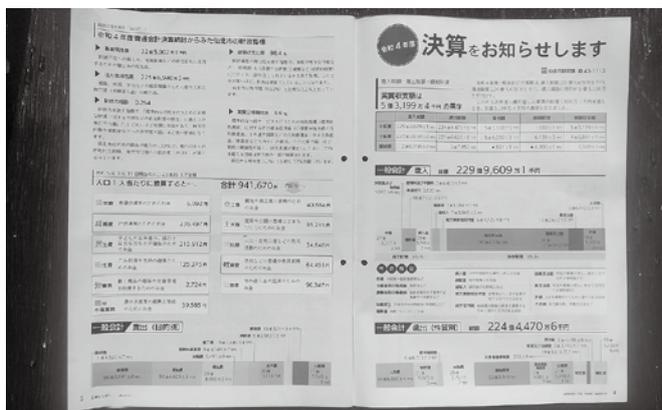
答弁 確かに民間企業と違い、借金であろうが基金の取り崩しであろうが収入と見なされ、赤字にはならない仕組みである。事業の進捗を確認し、歳出の清算減額等の処理をしっかりと行うよう指示していく。

質問 財政構造の弾力性を示す指標とされる「経常収支比率」が100%を超えており、人件費など経常的な経費までも借金等で賄うことになるが、令和5年度は何か特別な事情があったのか。

答弁 経常収支比率に影響する人件費は昨年度より減少しているが、病院事業への2億円、はなさき仙北への1億円の補助金の増額が比率悪化の要因であり、両者には企業努力による経営改善をお願いしている。

事務事業評価による行財政改革について

質問 仙北市の行財政改革を目的に、既存の事務事業の廃止、縮小、



■広報誌等で市民への分り易い説明が求められた令和5年度黒字決算

継続、拡充を判断する事務事業評価に期待している。今年度、95事業を評価するにあたり、仙北市総合政策審議会での外部評価を受けた事業が4事業しかなかったが、もっと外部の評価を取り入れるべきではないか。

答弁 外部評価は様々な分野に精通された方々をメンバーとしている。一次評価で廃止とした事業はすべて外部評価を得ている。今年度は一次評価で継続とした中でも、特に重要な事業で客観的な意見を伺いたい3事業を外部評価とした。

選挙の投票率アップに向けた取り組みの進捗状況について

質問 令和4年度の仙北市議会議員選挙後の一般質問の答弁で導入とした、バス等での移動式期日前投票所が可能となる、選挙人名簿対照オンラインシステムと投票所までの選挙人の移動支援についての進捗状況を伺う。

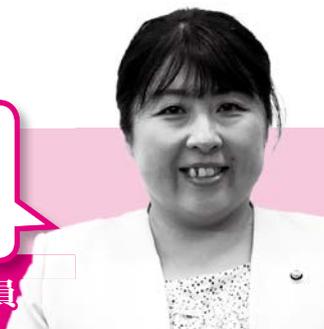
答弁 (選管事務局長) システム導入には約5〜6百万円を要し、バス等の巡回ルートの構築も困難であり、選挙人名簿対照オンラインシステムの導入は断念した。

投票所までの移動支援は、タクシー会社と提携し、来春の県知事選挙から対応したい。

質問 バス等での投票所は、期日前投票での利用であり、巡回ルートはいくらでも構築できるし、事業費は国の補助金などがあるはずだ。いったい何を検討したのか。

一般質問での答弁内容が一方的に反故されており、議会を軽視した対応ではないか。市長はどう思うか。

答弁 非常に心苦しく感じている。仙北市での導入についての可能性をもう一度検討させて欲しい。



地域のこども園の将来は

新成せんぼく 西宮三春 議員

市長 今後10年間を見据えた検討をしていく

子どもの「育ち」への支援について

質問 昨今の出生数の動向から入園園児が減少し、経営が厳しいと見込んでいる地域のこども園の検討は。

答弁 現在、仙北市こども計画策定に向けた保護者アンケートによるニーズ調査を行い、今後の保育施設の必要量の見込みを立てている。

質問 0歳からの入園や配慮を必要とする子どもの増加傾向等、保育士の余裕ある配置が必要と考える。はななき仙北補助金についての見解を伺う。

答弁 市の財政状況が厳しい中、はななき仙北運営補助については継続をしていくが経費の削減等、市と共に様々な工夫をし、この地域の子どもたちの育つ環境を維持したい。

利用しやすい子育て支援へ

質問 大仙市に産後ケア施設が開設され、ニーズが増えると想定される。

補助を受けての利用回数を増やすことはできないか。また、多胎児世帯への子育て支援の拡充について見解を伺う。

答弁 現在、産後ケア施設利用に係る補助は、1回の出産につき通所型1回、居宅訪問型3回の補助となっている。近隣を参考に通所型、居宅

訪問型問わず7回まで補助回数を引き上げる。

また、多胎児世帯に対して、出産された子ども数にに応じて利用回数を倍増するよう検討していく。

質問 市が行っている支援や相談窓口のうち、若い世代や現代のニーズに合っていないと思われる行政サービスの改善・拡充について伺う。

①産後ケア利用申し込みが電話のみだが、産後の体調を考慮し、電話以外の申し込みを選択可能にしてはどうか。②こども家庭センター相談窓口も現在電話のみだが、相談申し込みをLINEでも受け付けできないか。③「こころの相談」も電話相談のみだが、相談したい学生が利用できない現状を改善できないか。

答弁 ①母子手帳アプリから申請し、手続きを進める方法を導入に繋げていく仕組み・体制を検討する。②市民意識調査によりニーズを把握し今後の対応を検討する。③今後、



■大仙市にも開設され益々需要が高まる産後ケア

さらなる防災強化に向けて

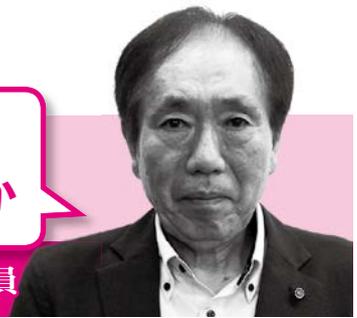
質問 近年の豪雨災害等を踏まえ、毎年実施している消防団の水防訓練と、市内の各自防炎組織が合同で訓練を実施することで、災害時の連携強化・市民の自発的な防災組織の結成や育成強化も期待できると考えるが、見解を伺う。

答弁 今後、各種訓練への自主防災組織の参加について、消防団や角館消防署と協議し、さらに強固な関係構築について検討していく。

受付方法・相談体制を検討する。

宿泊・イベント対応に
新たなホテル誘致が必要ではないか

新成せんぼく 中村和彦 議員



市長

ホテル誘致は今がチャンスと捉え
滞在型観光地を実現させたい

福祉行政について

質問 ここらの健康について、ゲートキーパーを養成し、自殺予防対策等を図るとの事だが、具体的にどのような進め方のか伺う。

答弁 ゲートキーパーは、周囲で悩み孤立している人へ声をかけ、必要な支援へとつなげる事を目的としており、最終的に、市民全員がゲートキーパーとなり、自殺予防の意識を高め、仙北市から自殺者を無くすことを目標としている。今後、私を含めて市役所全職員の受講を計画している。令和元年から令和5年度まで、市内で562名の方が受講している。

質問 病児・病後児保育事業について、令和7年度設立とあるが、進捗状況を伺う。

答弁 社会福祉法人はなさき仙北が、角館こども園敷地内に病児・病後児保育施設を来年度開設するべく、現在、新築に向けた基本設計に取り組んでいる。建設にあたり、来年度補助金申請を行い、事業スタートは、遅くとも令和8年度を予定していると同っている。

今後の観光行政について

質問 宿泊施設が少なく、個人、団体、外国人観光客、イベント等の対

応について、ホテル誘致が必要と思うが考えを伺う。

答弁 全県的に見ても宿泊施設が、非常に枯渇している。新聞報道では、能代駅前へのホテル誘致や、潟上市でのビジネスホテルの建設、男鹿市での、一泊10万円を超える高級なホテルが建設されるとのことである。仙北市でもホテル誘致の対応が必要と考えている。ぶなの森玉川温泉の跡地を、星野リゾートが所有しており、玉川開発の役員会を行う時はオンラインで参加している。

また、古城橋のたもとの土地を所有している共立メンテナンス、ドリーミーインさんが、ボーリングして温泉が出たことも聞いている。そういった有力なホテル経営企業の仙北市への進出を促していきたいと思っている。ホテル誘致は、県内の複数の自治体で建設の兆しがあり、今がチャンスと捉えており、私自身もホテル誘致に向けたトップセールスを積極的に進めたい。新たな可能性を探ることは無難であるが、一時休止となっているホテルの活用も含め、滞在型観光地の実現に向けて、継続的に取り組んで



■今がチャンスと捉え今後力を入れるホテル誘致

いく。

質問 宿泊税導入についての進捗状況を伺う。

答弁 全国各地で宿泊税の導入が加速化されており、当局としても目標に掲げている。導入に際しては、宿泊事業者の理解を得られることが必要不可欠であり、導入に向けた第一歩として、市内宿泊業者との意見交換会を10月から実施する方向で調整を進めているところである。



澤田 雅亮 議員

長期休暇時の児童クラブでの
弁当注文サービスの導入を

市長

利用意向を把握するためアンケート調査を実施したい

長期休暇における児童クラブの弁当注文サービスについて

質問 広い仙北市において、弁当を提供するのに地域格差もあると思うが、まずは出来るところから助成なしで試験的に運用してはどうか。

答弁 毎日の弁当作りを負擔と考える保護者もいるとは思うので利用者意向アンケートを実施し、地域格差も踏まえて検討していく。

質問 子ども及び、その家族の幸福度上昇に向けて重要な取り組みだと思うがどう考えるか。

答弁 実現できれば子ども、保護者にとって良い施策と考えられる。

質問 地域での飲食店と協力体制の構築を重要と考えるが、地域ごとの話し合いを今後どのように考えるか。

答弁 飲食店の少ない地域もあるため、まずはアンケートを取り、どのような協力を求めるかも含め、地域の方々と話し合いを進めていく。

質問 こども家庭庁から、市の財政を圧迫せずに、昼食準備にかける人件費助成の情報があるが市はどのよ



■放課後児童クラブでの弁当注文サービスの検討を始める子育て推進課
隣は今年度新設のこども家庭センター

うに考えるか。

答弁 (市民福祉部長) こども家庭庁の情報は把握しているが、実際仙北市のスケールを考えた時、職員の確保ができるかどうかも含め調査が必要と考えている。

仙北市の観光環境向上について

質問 観光環境の変化に際して、現在実施計画的なものを検討しているのと聞いているが、観光振興計画はどのように対応するか。

答弁 変化する世の中の動きに合わせながら、年度毎に推進協議会で話

し合いを進め、時代に即したものにしていこう。

一人あたりの観光消費額を上げるために、令和5年度からは仙北市では、国の高付加価値事業に田沢湖の宿泊施設などが取り組み、施設のリニューアルなどを行う事で、高付加価値を目指してブランド化に繋げていく。

質問 仙北市第三次観光振興計画の中で、グランドデザインを農村・営み、自然・温泉、歴史・伝統イコール「仙北市ブランド」で共に創るために数値的目標及び、達成するための環境整備をどのように考えるか。特に、建設コスト、維持コストについてどのように検討するか。

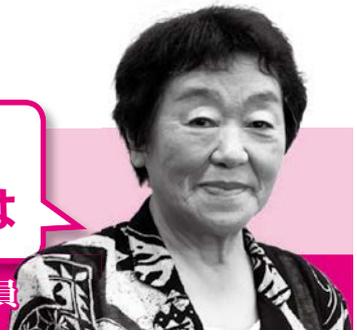
答弁 高い景観価値を維持するための環境整備が最重要課題と考える。

質問 仙北市の観光に対するグランドデザインを形にするために管轄は市ではないが、学校の専門性を高めていくことが重要では無いかと思うがどうか。

答弁 観光業の推進においても、人材育成は非常に重要であり、市、企業、高校の産学官が、より一層の連携を図り、今後どうやって仙北市の観光業をより一層向上させていくのか、また、客単価を上げるのか、人数を増やすのかなどの戦略的な部分も具体的に考えていきたい。

伝統野菜「田沢ながいも」を
絶やさないための支援策は

日本共産党 平岡 裕子 議員



市長

生産者の皆さんと、意見交換しながら
市の支援についての方向性を検討したい

「田沢ながいも」栽培支援について

質問 「田沢ながいも」は、栽培する砂地の多い土壌が大きく影響しており、他の地域の長芋と比べて「粘り」「コク」が強いのが特徴であり、販売と同時に完売となる人気商品だ。今年は、イノシシによる被害が大きく収穫減は目に見えているが、イノシシ被害対策で苦慮しているとのこと。電気柵が有効との情報がある。

答弁 国の補助金交付条件に、自治体に課せられている被害防止計画を仙北市は策定しているか。

答弁 平成24年に策定し、令和3年に更新、今年度で計画満了になるのを見直しを行う。

質問 また、条件には、個人ではなく受益戸数が3戸以上で防止計画が策定されていることなどあるが、ない場合はどうなるのか伺う。

答弁 (農林商工部長) 市の防止計画により、仙北市鳥獣被害対策協議会が設置されており、協議会で交付金を活用することになる。被害にあったからと、すぐ活用できるものではない。脈々と受け継がれてきた「田沢ながいも」を今後も何らかの



■6月下旬、イノシシ被害により、収穫が見込めないながいも畑

支援をしていきたい。

市の単独補助金として、今定例議事に補正予算を計上している。

質問 市の特産品として今後生かしていくとすれば、具体的な施策があってもいいのではないか。

答弁 生産者の高齢化、担い手がないなど課題がある。農業が引き続き携わっていただけるような環境づくりをしていかなければならない。

高齢者の活動支援を

質問 老人クラブは、年会費を出し合い、市の補助金と合わせた予算の

中で、仲間と活動を楽しんでいるが、市老人クラブ連合会への負担もあり、窮屈な内情になっている。県単位の集会等に、仙北市のバスを使用できないのはなぜか疑問に思っている方が多い。理由を伺う。

答弁 市バスの使用は、市の事務事業に関する調査や視察研修、市のイベント、外部団体に委託して行う事業に、規程を設けて使用の可否を決定している。老人クラブには一般の団体と同じように、市バスの使用を許可していない。

質問 長寿支援課の担当イベントとしての参加となれば、バス配車は可能ではないか。見解を伺う。

答弁 市老人クラブ連合会の補助金には、各種研修会や各種大会時にバス等借り上げ経費も含まれている。来年からは、県老人クラブ連合会主催の県大会及び文化祭に限り、市の事業として担当課でバスを借り上げたいと考えている。

他の質問事項

- ・旧角館病院解体、上野庁舎改修工事に関する進捗状況について
- ・飲料地下水の水質検査実施について
- ・社会福祉法人はなさき仙北への補助金について



職場内のハラスメントに関するアンケート調査を行う考えは

田口 寿宜 議員

市長 今後、実施について検討していきたい

ハラスメント対策について

質問 仙北市ハラスメントの防止等に関する要綱がある。第7条に相談員の設置という条項があるが、常に相談できる体制が必要であると考え。現在、相談員はいるのか。

答弁 総務課長と総務課職員係を相談員として配置している。これは、仙北市ハラスメントの防止等に関する要綱第6条の規定により、ハラスメント防止・排除のための指針を設けており、その中で規定している。

質問 第8条に、ハラスメント対策委員会の設置という条項がある。条文を読む限り、相談を受けてから動く対策委員会と受け止めた。ハラスメントが起きないように、常に対策を論じ、行動を起こしていく、周知していく委員会にするべきではないか。

答弁 ハラスメント対策委員会は、相談または苦情があった場合や相談員からの報告による委員会と規定している。事案について事実関係を調査し、市長への懲戒処分もしくは指導上の措置の提言、または当該所属長、相談員及び職員に対して指導、助言、必要な斡旋を行う委員会と位置付けている。

指針において、ハラスメント防止

対策の責任者を総務課としており、人権が尊重される良好な職場環境を確保するため、指針の職員への周知徹底や研修、相談窓口の設置に取り組み事としている。また、各所属長は指針に基づき職場内でのハラスメント防止に全力を挙げ取り組むと共に、相談・苦情等があった場合は直ちに対応し、総務課長と連携し、問題の早期解決に努める事としている。まずは本指針に基づき対策を進めていきたい。

質問 職場内のハラスメントに関するアンケート調査を行う考えはないか。

答弁 匿名の訴えを受け入れる事など、相談窓口への入り口になる事が期待されるので、定期的なアンケート調査の実施について検討したい。

部活動の地域移行について

質問 文化部（特に吹奏楽部）においても部員数の激減により、そう遠くない将来に地域移行の形を取る時が来るものと予測される。運動部と合せて検討されているのか。

答弁（教育長）指導者や練習場所の確保等の課題が想定されるが、地域の実情に配慮すると共に、他地域の実践例なども参考にしながら、児童・生徒及び保護者の要望を丁寧聞き

取り、仙北市部活動地域移行検討委員会及び仙北市部活動地域推進本部において、文化部活動のより良い地域移行の在り方について議論を重ねていく事としている。



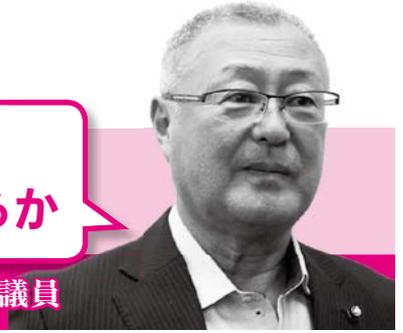
■運動部に続き地域移行が検討される吹奏楽部などの文化部活動

他の質問事項

- ・田沢湖マラソン中止について
- ・はなさき仙北の運営について

まちのたたみ方を
どのようにイメージしているか

蒼生会 門脇晃幸 議員



市長

仙北丸を縮小しても安心して
目的地へ向けて旅ができるイメージを描いている

まちのたたみ方について

質問 立地適正化計画は策定しているか。

答弁 本計画は、市全体の未来像を描き、公共施設や民間サービス施設等も対象に流動を図るための制度として創設された。仙北市では策定していないが、令和7年度から2カ年を目途に国の財政的支援を受けて策定予定である。

質問 まちのたたみ方は、行財政改革そのものであり痛みを伴う。市民の理解を得るのは容易ではないが、市として有益なたたみ方と判断した場合も実行に移すプロセスの継続が大事と考える。市長の見解を伺う。

答弁 まちのたたみ方（行財政改革）を進めることは市として避けて通れない課題と認識している。

持続可能な地域社会を維持するためには、かつては地方創生が重要なテーマとなっており、分散したインフラや公共サービスを維持するべく公共施設や交通、医療、福祉サービスなどを中心市街地や主要地域に集約し効率的な運用を図るコンパクトシティ論が提唱されてきた。

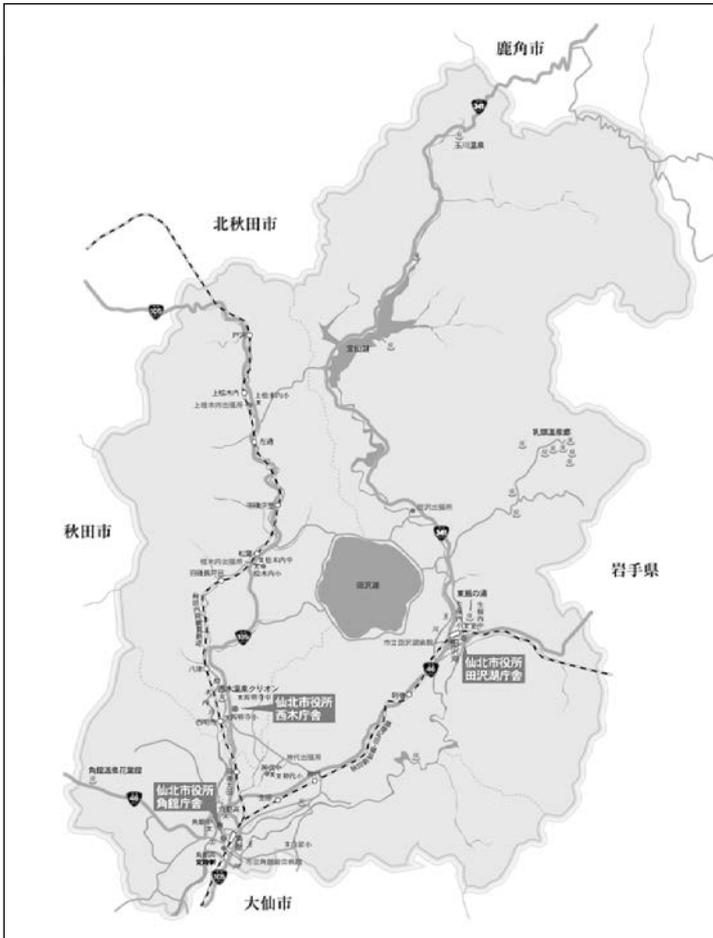
しかしながら、居住する人たちの土地に対する愛着を鑑みない論法で効率だけを重視した政策は、幸福度全国ナンバーワンのまちからかけ離

れたものであり、持続可能な行財政改革となり得ない。そうした社会情勢を加味して、策定した第二次仙北市総合計画の改訂版では、幸福度全国ナンバーワンのまちを目指すことに特化し、更には政府の推し進めるデジタルの力を積極的に活用し、行政の効率化と住民サービスの向上を図るものとなっている。

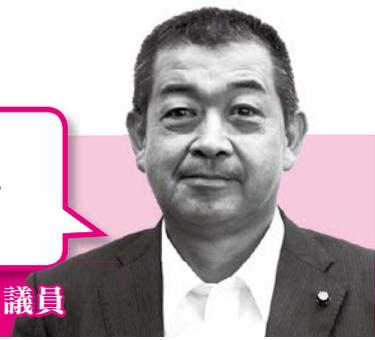
人口減少や高齢化が進む中で、デジタル技術を活用した遠隔医療やリモート教育の導入は、特に地方での生活の質を向上させる重要な手段である。これにより、地域に住む人々

が、都市部と同じように医療や教育サービスを受けられる環境が整い、住民が安心して暮らし続けることができる。かつてとは違うが、これも現代風のまちのたたみ方であり、住民自らがやりたいことを行いチャレンジしていることが、新しいまちの形と考える。

改革の痛みを最小限に抑え効率的、持続可能なまちづくりを目指すことが、幸福度全国ナンバーワンのまちへの近道と考え、今後も信念をもって市政運営を継続していく。



■広大な仙北市



蒼生会 真崎 寿浩 議員

防災無線廃止後の情報伝達体制は万全か

市長

新たな情報伝達システムにより
最大限の情報発信に努めていく

安心で安全な地域づくりとは

質問 屋外スピーカーによる伝達方式防災無線は、来年度に廃止されるが、緊急時の情報伝達体制の計画は万全なのか。

答弁 現行の防災無線は令和7年度より従来の屋外スピーカーによる伝達方式のものから、スマートフォンや戸別受信機へ情報伝達する新しいシステムへ移行する。これにより従来の方式では、風や雨が強い場合や機密性の高い住宅では、聞こえにくいといった問題も解決するほか、スマートフォンを用いて屋内外、市内外を問わず最新の情報をいつでもどこでも受け取ることができるようになる。

Jアラートが出す地震、気象情報や市が出す避難情報を、より迅速にお伝えできるようになる。既存の安心・安全メールやLINEなどSNSもフル活用し、引き続き最大限の情報発信に努めていきたい。

質問 安心で安全な地域づくりには、自主防災組織が組織化されていればこそ「やれる事」「できる事」がある。自主防災組織の必要性については認識しているが、現時点で組織率は向上しているのか。人口減の影響等で活動を休止している団体はないのか。

答弁 自主防災組織は共助の要（かなめ）であり、地域の防災活動を行う上で非常に重要な役割を担う組織である。

角館地区7組織、田沢湖地区18組織、西木地区12組織の仙北市全体で37の自主防災組織が結成されている。今年度になって新たな組織は形成されていない。

地域の防災セミナー等を開催し、自主防災組織の重要性について説明するほか、自主防災組織が実施する防災訓練や講習会の開催、防災用品の購入等の防災活動に係る事業に対しての助成金など、市の支援について説明している。

また、組織の結成を促すため自主防災組織の重要性について知ってもらおうべく、各種集会などへ危機管理監や総合防災課職員が出席し、新たな組織結成について強力に働きかけを行っていく。

質問 地域における、安心・安全なまちづくりに関する要望事項等について、その対応は万全なのか。財政的な制約はあるが、その対応はどのようなことがなされるのか。

答弁 安心・安全なまちづくりに関する要望について、特に防災分野においては、財政的な部分の裏づけも必要ではあるが、防災・減災にしっかりと市が取り組むということは、この地域の市民の皆さんの安心・安全な暮らしの基本となるので、できる限り要望に応えていきたいと考えている。



■土砂で埋まった車からの救出訓練（令和6年度の仙北市総合防災訓練）

総務文教常任委員会

ふるさと仙北応援基金積立金へ3億円補正

9月定例会の総務文教常任委員会では、合併に係る新市建設計画新旧対照表の一部変更「新市建設計画の変更について」及び、令和5年度の決算認定、令和6年度の補正予算などについて審査されました。

補正予算では、ふるさと納税返礼品費や校務支援システム事業費などについて議論されました。

令和6年度 総務部・教育委員会関係の一般会計補正予算 主な内容

ふるさと納税ふるさと便仙北市魅力発信事業費	1億5,165万円	ふるさと納税返礼品費など
ふるさと仙北応援基金積立金	3億円	ふるさと仙北応援基金への積立金
定額減税補足給付金事業費	5,849万円	定額減税の追加給付金（国庫）
戸籍事務・マイナンバー制度導入事業費	1,870万円	マイナンバーにふりがなを振る為の費用（国庫）
校務支援システム運用事業費	323万円	校務を支援するシステム構築のための費用
スクールカウンセラー配置・活用事業費	170万円	いじめ・不登校相談執務者への報償費等

令和6年度 一般会計補正予算の主な質疑

◆ふるさと納税返礼品のコメ不足について

質問 ふるさと納税返礼品のコメが高くなっているが、品物はあるのか。

答弁 コメの価格が高騰しており、なかなか集まらない状況で、現在は返礼品のコメをストップしている。あるものしか売れないという事で進めてまいりたいと考えている。

◆校務支援システム運用事業費について

質問 令和7年度から行う事業との報告だったが、なぜ、このタイミングでの補正予算なのか。

答弁 来年度の運用に向けて、システムを構築する為の補正である。7月に費用が公表されたので、9月補正予算に計上させていただいた。

令和5年度 一般会計歳入歳出決算認定審査の質疑から

◆田沢湖クニマス未来館の入館者数について

質問 クニマス未来館の入館者数が、年々少なくなっているが、今後の対策等はあるのか。

答弁 年々、入館者数が減っている事は自覚しており、何とか入館者数を増やしたいという事で、インスタグラムを始め発信力を高めている。また、秋の企画展も開催し誘客に努めたい。更に、観光課、観光協会と話し合いながら少しでも誘客を進めていきたい。



■入館者が増えるか
田沢湖クニマス未来館

◆インターナショナルスクール事業費について

質問 インターナショナルスクール誘致事業の現在の進捗状況はどうなっているのか。

答弁 非常に順調に進んでおり3年目の来年には、具体的な誘致サポートに向かえるのではないかと思う。口約束ではなく進出に係る合意書や覚書を交わし、良い報告が出来るように努めてまいりたい。

◆給食費の収入状況について

質問 給食費は全国的に無償化が進みつつあるが、その前に給食費の滞納状況について解消できないか、抜本的な手法はあるのか。

答弁 現年度分の収納率は99% 過年度分の滞納繰越分の収納率は7%強である。徴収に関しては、電話や対面により分納誓約書を頂き徴収に努めている。今後も滞納者の自宅に訪問する等、滞納解消に努めていきたい。

(熊谷 一夫 記)

市民福祉常任委員会

高齢難聴者補聴器購入費助成 10人分を追加補正

9月定例会の市民福祉常任委員会では、令和6年度一般会計補正予算及び令和5年度決算について審査されました。戸籍の氏名振り仮名を通知するためのシステム機能整備経費・高齢難聴者補聴器購入費助成の追加予算や、国民健康保険者証の発行廃止・資格確認書等について議論されました。

令和6年度 市民福祉部関係の一般会計補正予算 主な内容

戸籍事務・マイナンバー制度導入事業費	187万円	戸籍の氏名振り仮名を通知するためのシステム機能整備経費
高齢難聴者補聴器購入費助成事業費	30万円	助成対象者が当初予算より増えたため追加の補正費用
温泉休養施設管理組合費	74万円	クリオンの耐火扉が腐食劣化のための取り替え修繕費

ここが知りたい
健康保険被保険者証の発行廃止と「資格確認書」の発行について

マイナンバーカードと健康保険証の原則一本化の方針に基づき、令和6年12月2日以降、従来の国民健康保険被保険者証及び後期高齢者医療被保険者証発行は廃止となり新たに発行できなくなります。

発行済みの国民健康保険被保険者証は有効期限の令和7年9月30日まで使うことができます。

同じく、後期高齢者医療被保険者証は有効期限の令和7年7月31日まで使うことができます。

マイナ保険証（保険者利用登録をしているマイナンバーカードのこと）を持っていない方で、次の対象の方には、健康保険被保険者証の代わりとなる「資格確認書」を発行します。

【対象の方】 マイナ保険証を持っていない方、マイナンバーカードを持っていない方で令和6年12月2日以降に出生・新たに健保へ加入・健保加入者で転入された方、健康保険被保険者証を紛失した方などに「資格確認書」を発行します。

【形状】 現行の被保険者証と同様のサイズ

【有効期限】 1年間
※その他の詳細については、広報等でお知らせする予定です。

令和5年度 仙北市病院事業会計決算 単位：千円

	角館病院	田沢湖病院	合計
医業収益	3,134,492	569,465	3,703,957
医業費用	3,811,161	852,934	4,664,095
医業利益	△ 676,669	△ 283,469	△ 960,138
医業外収益	510,591	320,318	830,909
医業外費用	188,661	40,341	229,002
経常損失	△ 354,739	△ 3,492	△ 358,231
特別利益	9,860	1,885	11,745
特別損失	0	0	0
純損益	△ 344,879	△ 1,607	△ 346,486



令和5年度 一般会計から9億5,954万円繰入れしている角館総合病院



令和5年度 一般会計から3億9,046万円繰入れしている田沢湖病院

【参考】令和4年度 仙北市病院事業会計決算 単位：千円

	角館病院	田沢湖病院	合計
純損益	△ 317,874	△ 10,403	△ 328,277

※仙北市の財政負担が大きい2つの市立病院への経営支援
(小田島 広仁 記)

産業建設常任委員会

有害鳥獣駆除事業費

電気柵購入費補助金等として397万円を追加

9月定例会の産業建設常任委員会では、主に令和6年度一般会計補正予算や令和5年度一般会計歳入歳出決算認定及び令和5年度の温泉・水道・下水道事業決算について審査されました。一般会計補正予算では、林業総務費として有害鳥獣駆除事業費397万円の追加となりました。

令和6年度 観光文化スポーツ部・農林商工部・建設部関係の一般会計補正予算 主な内容

有害鳥獣駆除事業費	397万円	有害鳥獣対策用電気柵購入費補助金等
市指定天然記念物補助金	18万円	市指定天然記念物「柏」の保存と防災のための剪定費への補助
農業用施設災害復旧費	587万円	令和6年6月30日以降の大雨災害による農地、農業用施設の復旧費
公共土木施設災害復旧費	3,082万円	令和5年8月以降の大雨災害による河川の復旧費

令和6年度 一般会計補正予算の主な質疑

◆有害鳥獣駆除事業費について

質問 イノシシの捕獲数はどの程度か、また、有効な電気柵設置に向けた講習会等は実施するのか。

答弁 捕獲数は9月16日現在で25頭である。電気柵については購入時のマニュアルにより適切に設置可能であると考えており、県の鳥獣対策会議の中で職員が講習を受けたが、難しいものではなかったこともあり講習会は考えていない。

◆市指定天然記念物「柏」 保存事業費補助金について

質問 剪定方法はどのようなのか。

答弁 高所作業車を伴わない特殊伐採「空師(そらし)」による枝おろしでコンパクトに剪定する。

◆公共土木施設災害復旧事業費に ついて

質問 市内の河川の流木や除草作業を含めて、県にお願いすべきではないか。

答弁 県管理河川については要望をしており、松木内川についても過去に何度も対応してもらっているが、かなり溜まっている場所もあるので引き続き要望していきたい。

令和5年度 公営企業会計決算を認定

単位：千円

会計名	事業名	収入	支出	収 差 引 額	企 業 債 残 高
公営 企業会計	温泉事業	53,914	63,015	△9,101	91,767
	水道事業	467,079	604,894	△137,815	3,811,026
	下水道事業	840,069	932,885	△92,816	4,973,677

令和5年度 公営企業会計決算 認定審査の質疑から

温泉事業 令和5年分の未収金はあるか。また、それ以前の未収金の回収見込みはどうか。

答弁 現年分の未収金は発生していない。過年度分については、二つの会社から毎月一定の額を納めてもらっており、年々減少していく見込みである。

水道事業 人口減少が進み、供給戸数が減っていく中で経営対策等はあるのか。

答弁 今月からの料金改定で増収にはなるが、人口減少分を全て補える程ではなく、薬品や水道メーター、電気料等も高騰しており、現金預金を維持しながら事業を実施していきたい。

下水道事業 田沢湖浄化センターの大規模改修が予定されているのか。また、工事期間はいつまでか。

答弁 スtockマネジメント計画に基づき設備等を順次改修しており、令和7年度まで長寿命化を目的に実施を予定している。

(武藤 義彦 記)

仙北市議会議員活動紹介



医療 MaaS 車輜「医信電診丸」に興味津々の大仙市・美郷町の議員の面々



ユーモアたっぷり市川所長の講演に聞き入る2市1町の議員たち

大仙市議会議員・美郷町議会議員との交流会

10月11日 大仙市・仙北市・美郷町議会議員交流会が仙北市を会場に開催されました。

医療 MaaS 車輜の見学後、「ちんちん先生でも仙北市の最先端の地域医療」と題し、西明寺診療所所長市川晋一先生からご講演をいただき、仙北市の取り組みを2市1町の議員で情報共有し、活発な意見交換を行いました。

雫石町議会議員との交流会

10月15日 雫石町議会議員と

仙北市議会議員との交流会がアルパこまくさ 火山防災ステーションを会場に開催し、「八幡平山系直轄砂防事業について」と題し、秋田駒ヶ岳山系砂防出張所長 伊藤俊介氏よりご講演をいただき、県域を越えた広域行政の推進のため、議員相互の情報交換を図りました。



アルパこまくさ 火山防災ステーションでの土砂災害や砂防事業の講演の様子

この他、10月22日には、秋田市にて秋田県市議会議員研修会・10月31日には、湯沢市にて県南4市議員研修会が開催されました。
(西宮三春記)

新会派が結成されました

会派名 新成せんぼく

(令和6年9月17日設立)

役職	氏名
代表	青柳 宗五郎
副代表	小田島 広仁
幹事長	中村 和彦
会計	西宮 三春

表紙は市民提供の写真です

今回から表紙を写真好きの市民から提供していただいております。初登場は角館町下菅沢の雲雀秀人さんです。ご自分の菩提寺である白岩の雲巖寺の紅葉と凛とした杉並木の奥にある山門を映し出しました。

雲巖寺は角館町で最も古い1450年創建(574年前)で、山門は秋田県有形文化財に指定されています。座禅堂や白岩焼による千体仏など見どころいっぱい。

市民提供の写真を紹介します

ご提供は、四柱神社総代の佐々木達比古さんです。

この度、生保内の野村田向、相内端部落の守り神である四柱神社の鳥居を75年ぶりに青森ヒバ材で建て替えました。(新旧の鳥居です)



編集後記

市民から負託を受けた議員は、一般質問で市民の声を議会に届け、皆さんと一緒に市政を動かしていく役目を担っています。当局と多様性に富んだ内容を議論できることは、歓迎されると確信します。答弁の「検討します。」は、その後について確認したくないのが質問者です。「前任者から引き継いでいない」「議論に至っていない。」では、行政の連続性に疑念を抱いてしまいます。

昨年のコメの不作が響いて、今年は、コメ農家からの買い付け価格が高騰して、店頭に並ぶコメの値段は、税込み1キロ700円ほどが常態化しています。低米価でも頑張ってきた稲作農家にとっては、ようやく生産価格に追いつけたと安堵感はあるものの、物価高騰続きでは、素直に喜べない現実もあります。

ふるさと納税返礼品で人気のあった仙北市産米にも影響が出て、これまでのようにふるさと納税に頼れない状況下にあると言われ、市では、すでに次年度予算編成に取り掛かっており、5億円の支出削減を公言しております。厳しい財政が先行し曇天の中にいる思いますが、議会広報は、より一層読みやすい内容を心がけ、編集の見直しを模索したいと思っています。

(平岡裕子委員長記)